

法人名	株式会社 LaLaLand
施設名	ララランド横浜伊勢佐木

発表者名 (職名)	若松 咲季 (主任保育士)	住所	横浜市中区伊勢佐木町7-156 2F3F		
発表者名 (職名)	菊本 静里香 (保育士)	TEL	045-341-4890	FAX	045-341-4891
発表者名 (職名)	小平 璃々 (保育士)	メールアドレス	isezaki@la-la-land.co.jp		
		URL	https://la-la-land.co.jp/		
		定員	81名	職員数	31名

<p>発表の概要・内容</p> <p>〈はじめに〉 開園当初は、主体保育やコーナー保育を知らない保育士が集まり、一から保育を見直しました。園長、主任をもとにクラス会議や保育ウェブの作成、園内研修を繰り返すことで、少しずつ子ども主体の保育について理解を深めてきた。クラス会議の中では、今の子どもの姿に焦点をあてて話し合いを行ってきた。実際に話し合った内容をコーナー保育に取り入れ実践し、評価・反省を繰り返していくうちに環境の大切さを知った。保育者が連携を取り合い、実践し、共に学んでいくうちに、クラス内で子ども主体の保育の確立をしていった。</p> <p>開園から4年目現在、主体性保育のもとで育った子どもたち、今まで以上に伸び伸びと遊び込む姿がある。それまでの過程をエピソードとともに伝える。</p> <p>〈エピソード〉</p> <p>①主体性の理解 1年目：常にマットの上に玩具を出して、遊ぶ場所が明確でなく、玩具が散乱し、子どもの落ち着かない状態だった。なぜ、子どもが落ち着かないかを考えるようになった。「今の子どもの姿」に適した玩具が用意されていなかったことに気づく。子どもの姿を観察し、見取ることから始めていった。個人の好きな遊びを明確にすることで、環境に必要な物を設定するようになった。</p> <p>②実践から見えた壁 2年目：コーナー保育作りをしたが、静と動の分け方や、やり方がわからず、落ち着かない。主任に入ってもらうことで、コーナーを整え、各コーナーで遊べるようになった。そこから環境を整えることの大切さを知った。</p> <p>③保育士の連携 3年目：コーナーを作って子どもがどれくらい遊べるかを検証していった。そこから、遊んでいないおもちゃや場所、反対に遊び込むおもちゃや場所が分かって、広さやおもちゃの量の調整をしていった。そのためには保育者同士の対話と子どもの姿を知る重要性を再認識して、質が深まった。</p> <p>〈おわりに〉 3年間コーナー保育を続けたことで、子どもたちが遊びを選択する習慣が身に付き、自主性のある子どもが育った。保育者の考える力、より良い環境を作るために必要な柔軟性が身に付いた。今後の課題としては、3年間で学んだことを新しく入った保育者に主体性への理解、環境構成の必要性、保育者同士の連携を重要性を伝えていくことがあげられる。</p>

メモ